

卒業生、就職先及び専任教員を対象とした キャリア教育に関する質問紙調査結果

A questionnaire survey on career education for graduates, workplaces and regular teachers

伊ヶ崎 理佳* 中向井 政子* 荒川 浩久**

Rika IKAZAKI, Masako NAKAMUKAI, Hirohisa ARAKAWA

(*神奈川歯科大学短期大学部 歯科衛生学科 **神奈川歯科大学大学院 口腔衛生学講座)

キーワード：キャリア教育 ディプロマポリシー達成度 ステークホルダー調査

はじめに

2011年4月から「大学における社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）」が義務付けられ、社会で活躍できる人材育成が課題となっている。短期大学や大学における職業教育の取り組みは様々である。専門のキャリアセンターを設けて専任職員を配置している学校もあれば、大学の事務の一部でキャリア支援を行っている学校もある。神奈川歯科大学短期大学部（以下、本学とする）は歯科衛生学科と看護学科からなる医療系の養成機関で、幸いなことに歯科衛生士も看護師も求人が多い職種であり就職率は100%を継続している。しかし、就職できることと社会で活躍できる人材であるかは別の問題である。

本学は「愛」という建学の精神の下で¹⁾、ディプロマポリシーを定め、それを達成するためのカリキュラムポリシーに沿って授業や学生支援に取り組んでいる。そこで、学修成果測定の一環として、本学での社会的・職業的自立に関する指導等の現状を把握し、学生へのキャリア支援体制の改善について検討する資料とするために、就職先（ステークホルダー）、教員（ステークホルダー）、卒業生を対象にアンケート調査を実施した。

アンケート項目は卒業生の現在の就業状況と就職先（ステークホルダー）、教員（ステークホルダー）、卒業生を対象に下記に示すディプロマポリシーの達成度を調査したものである。

1. 医療人としての全人的で高い自覚と倫理観をもち、患者や地域住民に対し、いかに人間力を発揮できる

2. 豊かな教養・知性・英知を備え、患者・地域住民・他医療職とコミュニケーションをとることができる
3. 与えられる資格に必要な医療専門職としての知識と技術を修得し、患者や地域住民が、ライフステージに応じて健康をコントロールできるように支援することができる
4. 医療専門職としてのリーダーシップを発揮し、他職種と協働・連携してチーム医療を実践できる
5. 常に高い研究マインドをもち、臨床・地域社会・教育の場で、科学的思考力に基づき、多様な課題や問題を発見し、分析、解決することができる
6. 高齢者や障がい者に対しても、優しさに溢れるケアサービスを実践できる
7. 国際協力・被災者支援など、人々への貢献に取り組むことができる
8. 医療機器の操作、確認など医療安全管理の重要性を理解し実施できる

今回のアンケート調査の分析結果は積極的に医療系教育へフィードバックし、カリキュラムの改善・改革に繋げる必要がある。

方法

1) 調査対象

平成24年11月に、平成21、22、23年度歯科衛生学科卒業生169名、看護学科卒業生232名、各々の就職先および本学歯科衛生学科専任教員13名、看護学科専任教員18名に質問紙調査を実施した。

歯科衛生学科卒業生には、本人用と就業先用のアンケート用紙を送付し、同封の回答ハガキにて回収した。

看護学科卒業生には郵送によりアンケート用紙を送付

受付日 2014年1月17日

受理 2014年2月25日

し（一部は就業先用も同封）、同封の回答ハガキにて回収した。また、多人数が就業している病院には専任教員が卒業生分の就業先用アンケート用紙を持参し、同封の回答ハガキにて回収した。

専任教員には各学科の会議時にアンケート用紙を配布し回収した。卒業生対象アンケートの間1は卒業生の現状であり、卒業生対象アンケートの間2と就職先および教員対象アンケートの間1、および卒業生対象アンケートの間3と就職先および教員対象アンケートの間2は同じ内容とした。今回は卒業生、就職先、教員を対象に実施した共通する質問項目について集計分析した（図1）。

集計は対象を表側、5段階の回答者分布を表頭としてクロス集計し χ^2 検定するとともに、各質問項目の5段階の回答についてWilcoxonの順位和検定を行った。さ

らに、多重比較検定によって、歯科は歯科医院、歯科衛生学科専任教員、歯科衛生学科卒業生のなかで、看護は病院、看護学科専任教員、看護学科卒業生のなかでの差を検定した。それぞれ有意水準は0.05に設定した。

アンケート用紙には「個人情報の保護に関する法律を遵守し、ご記入いただきました個人情報につきましては、適正な保有や利用に努めます」と明記し、プライバシーの保護に努めた。集計についても全体にわたるものだけで個人に関する集計は行わなかった。

結果

1. 質問紙の回収率と分析対象

対象ごとの回収率は、歯科衛生学科卒業生（以下、DH卒業生）11.8%、看護学科卒業生（以下、N卒業生）

問1(専任教員・就職先) 問2(卒業生)				
<p>本学卒業生に身についていると感じている程度を5段階でお答えください。 (身についている程度)</p>				
強く思う 5	思う 4	どちらともいえない 3	思わない 2	全く思わない 1
①社会的マナー				()
②倫理観				()
③表現スキル(含 文章)				()
④プレゼンテーションのスキル				()
⑤専門科目の知識・技能				()
⑥情報収集・整理・利用のスキル				()
⑦学んだことを活用できる能力				()
⑧知ろうとする意欲、さらに学ぶ能力				()
⑨チームワーク力				()
⑩対人関係・コミュニケーション能力				()
⑪問題設定・解決能力				()
⑫社会参加意欲				()
⑬向上心・能力開発につながる学習方法				()
⑭幅広い知識、教養				()
⑮思いやり、礼儀・マナー				()
問2(専任教員・就職先) 問3(卒業生)				
<p>本学の卒業生に期待することは何ですか。その程度を5段階でお答えください。 (働くうえで重要であると認識している程度)</p>				
強く思う 5	思う 4	どちらともいえない 3	思わない 2	全く思わない 1
①専門的な知識技能				()
②幅広い知識、教養				()
③コミュニケーション能力				()
④責任感				()
⑤自己管理力				()
⑥マナーや言葉遣い				()
⑦課題や問題を発見し分析・解決する能力				()
⑧倫理的思考力				()
⑨汎用能力(情報検索、コンピューターのスキル)				()
⑩その他(具体的に)

図1 アンケート項目

10.8%、歯科衛生学科教員（以下、DH教員）100%、看護学科教員（以下、N教員）100%、歯科衛生学科卒業生就職先（以下、DH歯科医院）12.5%、看護学科卒業生就職先（以下、N病院）37.2%であった（表1）。これらが今回の分析対象者である。

表1 質問紙調査の対象と回収率

対象	郵送数	回収数	回収率(%)
DH卒業生	169	20	11.8
N卒業生	232	25	10.8
DH教員	13	13	100
N教員	18	18	100
DH歯科医院	168	21	12.5
N病院	218	81	37.2

2. クロス集計結果

1) 身につけている程度に関する結果

図1の卒業生対象の問2、ならびに専任教員および就職先対象の問1については、卒業生には「大学教育の成果についてお尋ねします。身についた程度を5段階でお答えください」、専任教員には「本学の学生が卒業するに当たり、身につけていると感じている程度を5段階でお答えください」、就業先には「本学卒業生は下記について身につけていると感じていますか。その程度を5段階でお答えください」という問いであった。集計結果を図2～16に示す。

DH歯科医院で判断した身についた程度の平均値で高いものから「思いやり・礼儀・マナー (4.2)」、「チームワーク力 (4.0)」、「倫理観 (4.0)」、「社会的マナー (4.0)」、「対人関係・コミュニケーションの能力 (3.9)」、DH教員では「思いやり・礼儀・マナー (3.8)」、「チームワーク力 (3.8)」、「専門科目の知識・技能 (3.8)」、「対人関係・コミュニケーションの能力 (3.6)」、DH卒業生では「専門科目の知識・技能 (4.5)」、「思いやり・礼儀・マナー (4.2)」、「知ろうとする意欲・さらに学ぶ能力 (4.2)」、「対人関係・コミュニケーション能力 (4.0)」、「チームワーク力 (4.0)」であった。特に卒業生自身の自己判断は全体的に高い評価(平均値)であった。歯科(DH歯科医院、DH教員、DH卒業生)群では「専門科目の知識・技能」の卒業生(4.5)と歯科医院(3.7)の間に有意差がみられ、卒業生は身につけていると思っているものの就業先の評価は厳しいものであった。また、「問題設定・解決能力」の卒業生(3.9)と専任教員(3.0)の間に有意差がみられ、教員は低い評価であった。

N病院で判断した身についた程度の平均値で高いものから「思いやり・礼儀・マナー (3.3)」、「チームワーク力 (3.2)」、「社会的マナー (3.2)」、「知ろうとする意欲・さらに学ぶ能力 (3.1)」、「学んだことの活用能力 (3.1)」、「倫理観 (3.1)」で、N教員では「チームワーク力 (4.1)」、

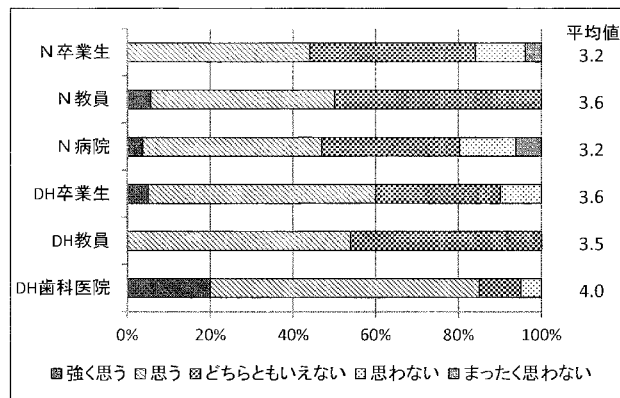


図2 社会的マナー

χ^2 検定: NS, Wilcoxon検定: $p < 0.05$

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

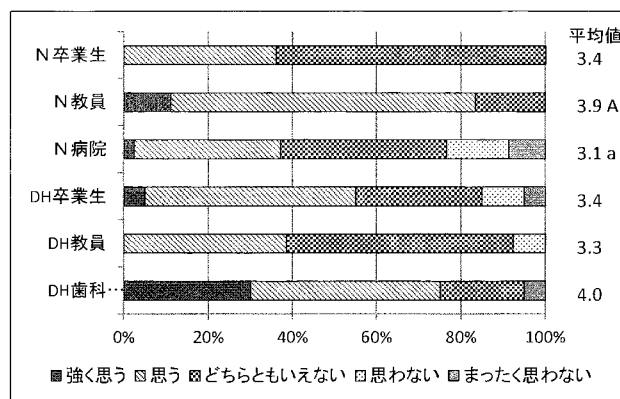


図3 倫理観

χ^2 検定: $p < 0.001$, Wilcoxon検定: $p < 0.001$

平均値に示した同一アルファベットの大文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

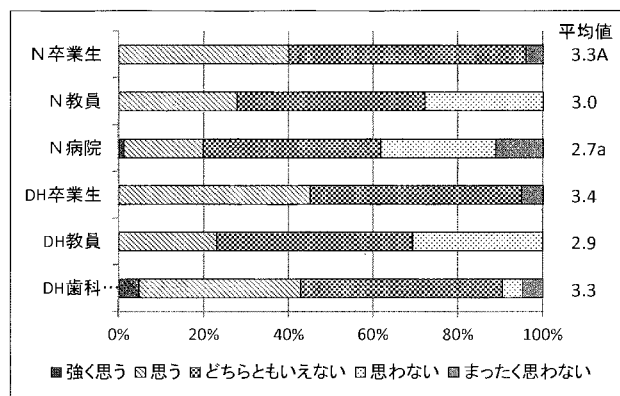


図4 表現スキル

χ^2 検定: $p < 0.05$, Wilcoxon検定: $p < 0.01$

平均値に示した同一アルファベットの大文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

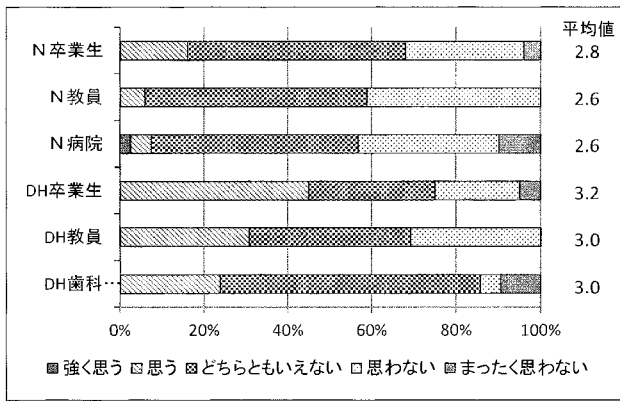


図5 プレゼンテーションスキル

χ^2 検定：p<0.05, Wilcoxon検定：p<0.05

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

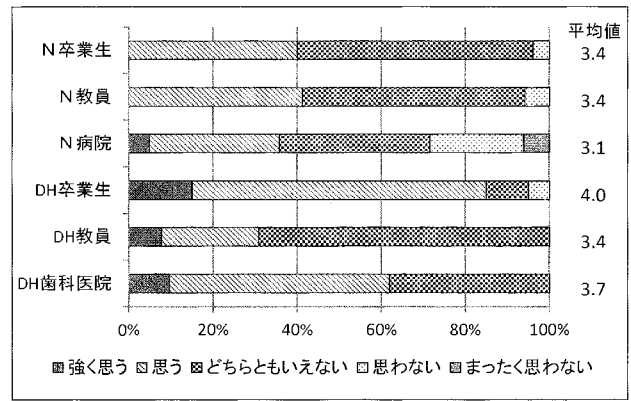


図8 学んだことの活用能力

χ^2 検定：p<0.01, Wilcoxon検定：p<0.001

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

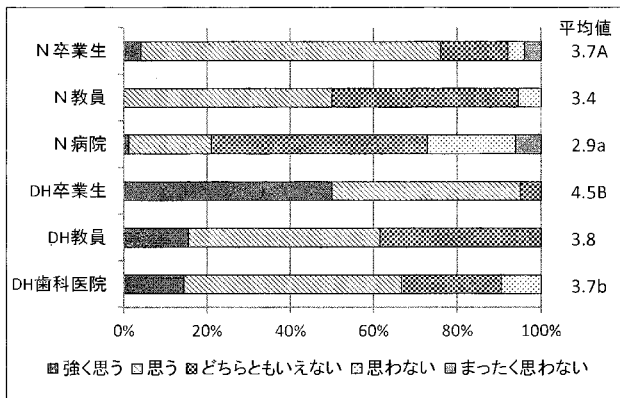


図6 専門科目の知識・技能

χ^2 検定：p<0.001, Wilcoxon検定：p<0.0001

平均値に示した同一アルファベットの大文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

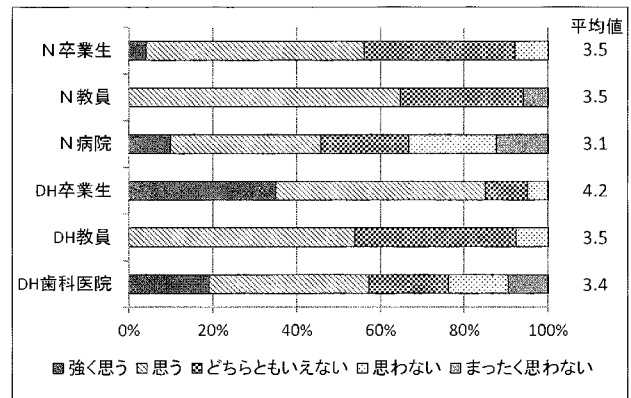


図9 知ろうとす意欲、さらに学ぶ能力

χ^2 検定：p<0.01, Wilcoxon検定：p<0.01

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

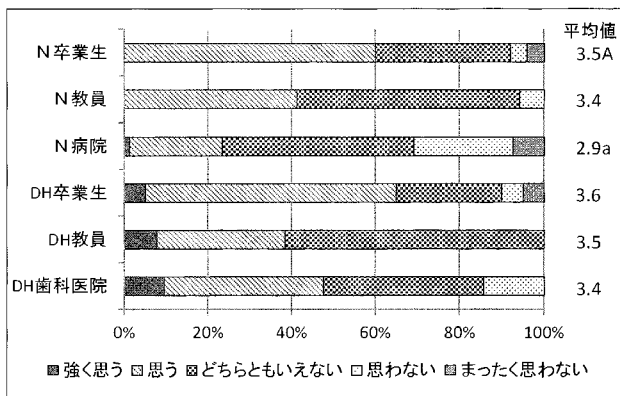


図7 情報収集・整理・利用のスキル

χ^2 検定：p<0.05, Wilcoxon検定：p<0.001

平均値に示した同一アルファベットの大文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

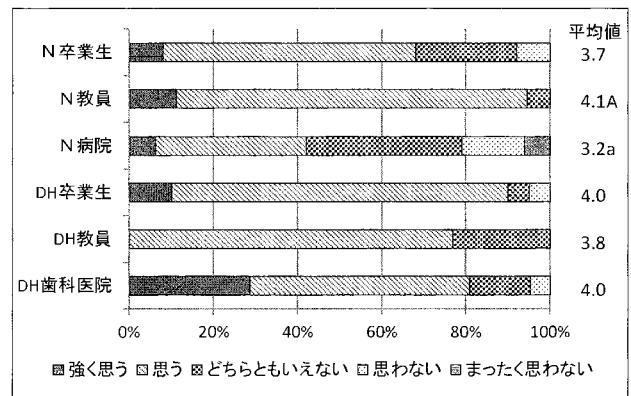


図10 チームワーク力

χ^2 検定：p<0.001, Wilcoxon検定：p<0.0001

平均値に示した同一アルファベットの大文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

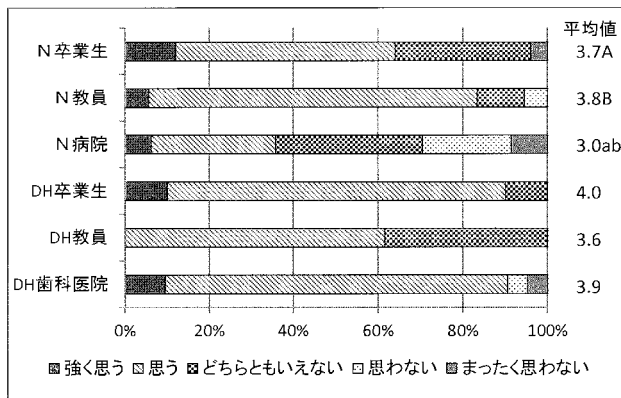


図11 対人関係・コミュニケーション能力

χ^2 検定：p<0.001, Wilcoxon検定：p<0.0001

平均値に示した同一アルファベットの大きい文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

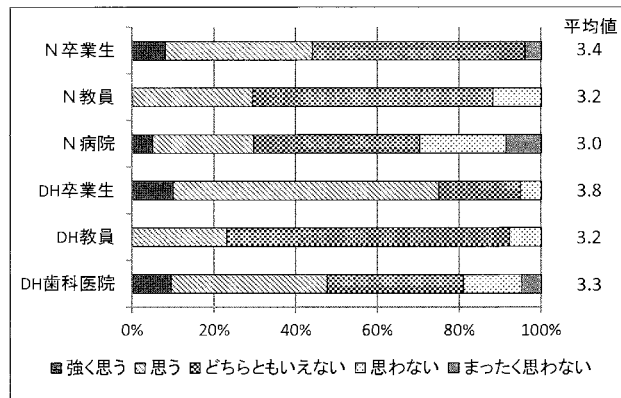


図14 向上心・能力開発につながる学習方法

χ^2 検定：NS, W検定：p<0.01

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

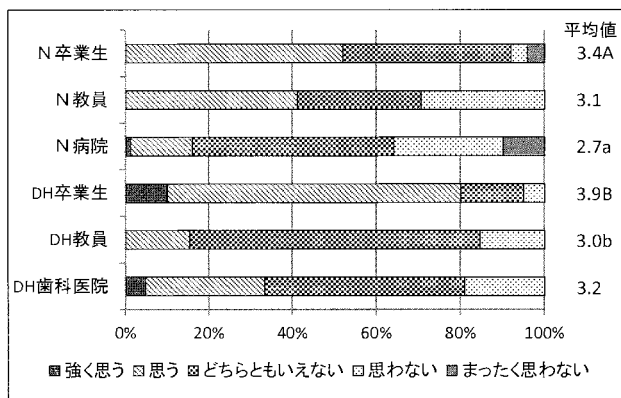


図12 問題設定・解決能力

χ^2 検定：p<0.001, Wilcoxon検定：p<0.0001

平均値に示した同一アルファベットの大きい文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

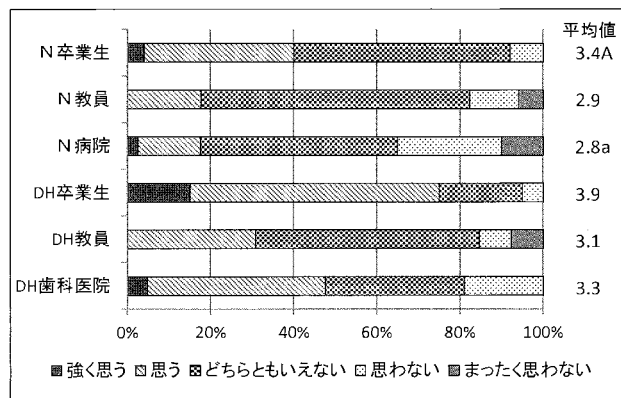


図15 幅広い知識・教養

χ^2 検定：p<0.01, Wilcoxon検定：p<0.0001

平均値に示した同一アルファベットの大きい文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

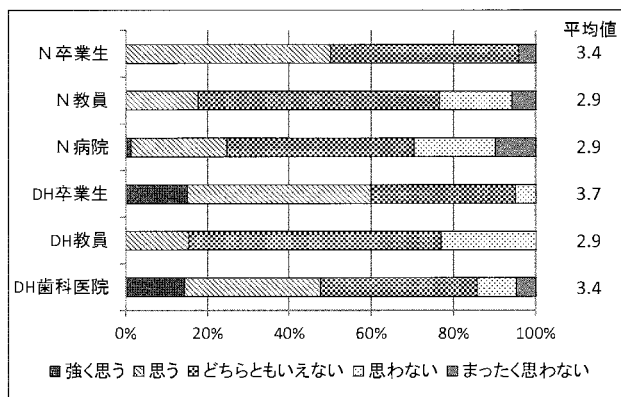


図13 社会活動への参加意欲

χ^2 検定：p<0.05, Wilcoxon検定：p<0.001

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

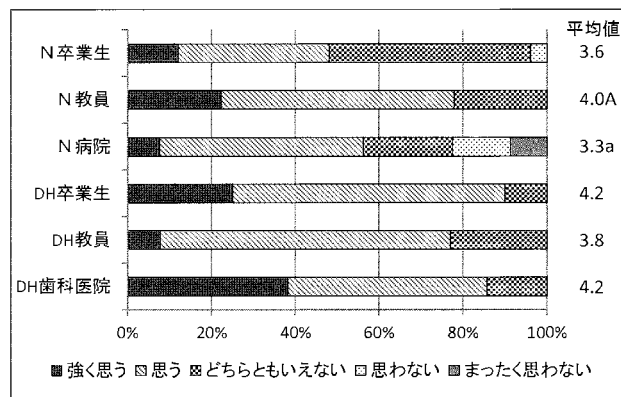


図16 思いやり・礼儀・マナー

χ^2 検定：p<0.01, Wilcoxon検定：p<0.001

平均値に示した同一アルファベットの大きい文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

「思いやり・礼儀・マナー (4.0)」、「倫理観 (3.9)」、「対人関係・コミュニケーション能力 (3.8)」で、N卒業生では「対人関係・コミュニケーション能力 (3.7)」、「チームワーク力 (3.7)」、「専門科目の知識・技能 (3.7)」、「思いやり・礼儀・マナー (3.6)」であった。特にN病院では全体的に低い評価(平均値)となった。看護(N病院、N教員、N卒業生)群では「倫理観」の教員(3.9)と病院(3.1)、「表現スキル」の卒業生(3.3)と病院(2.7)、「専門科目の知識・技能」の卒業生(3.7)と病院(2.9)、「情報収集・整理・利用のスキル」の卒業生(3.5)と病院(2.9)、「チームワーク力」の教員(4.1)と病院(3.2)、「対人関係・コミュニケーション能力」の卒業生(3.7)と病院(3.0)および教員(3.8)と病院(3.0)、「問題設定・解決能力」の卒業生(3.4)と病院(2.7)、「幅広い知識・教養」の卒業生(3.4)と病院(2.8)、「思いやり・礼儀・マナー」の教員(4.0)と病院(3.3)で有意差がみられ、病院はどの評価も低かった。

2) 働くうえで重要である能力に関する結果

図1の卒業生対象の間3、ならびに専任教員および就職先対象の間2については卒業生には「あなたが歯科衛生士(看護師)として働くうえで重要であると認識している能力などの程度を5段階でお答えください」、専任教員には「本学の卒業生に期待することは何ですか。その程度を5段階でお答えください」、就業先には「本学卒業生に身につけてほしいと期待することは何ですか。その程度を5段階でお答えください」という問いであった。集計結果を図17～25に示す。

「専門的な知識・技能」のDH卒業生(4.8)とDH歯科医院(4.0)およびN卒業生(4.8)とN病院(4.0)、「幅広い知識・教養」のN卒業生(4.5)とN病院(4.0)、「コミュニケーション能力」のDH卒業生(4.9)とDH歯科医院(4.2)で有意差が示された。どの対象群においても「汎用能力」、「倫理的思考力」を除いて4.0以上の高い平均値を示した。

考察

短期大学基準協会第三者評価の概要、評価基準²⁾に短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準が設けられている。選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行うとされている。また、中央教育審議会答申³⁾には「社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素としては、基礎的・基本的な知識・技能、基礎的・汎用的能力、論理的思考力、創造力、意欲・態度及び価値観、専門的な知識・技能など

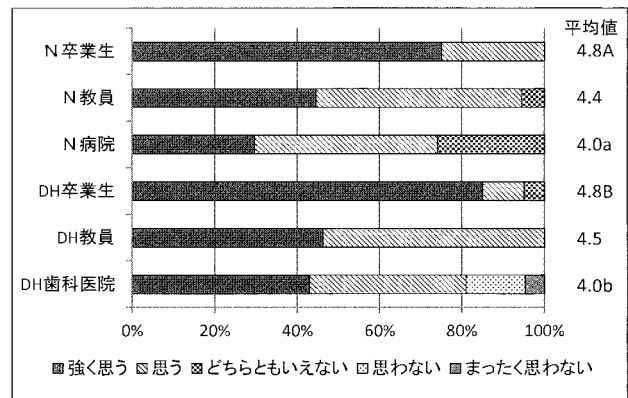


図17 専門的な知識・技能

χ^2 検定: $p < 0.001$, Wilcoxon検定: $p < 0.0001$

平均値に示した同一アルファベットの太文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

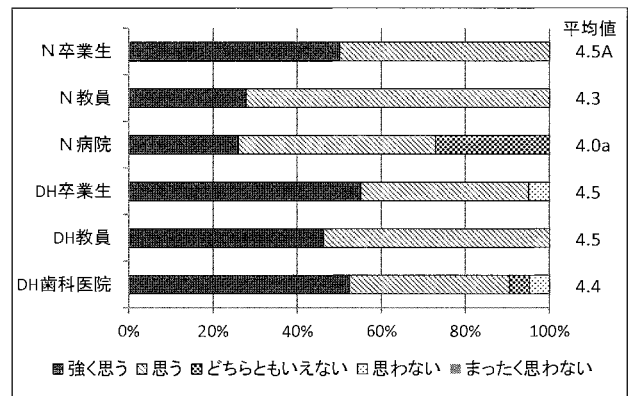


図18 幅広い知識・教養

χ^2 検定: $p < 0.001$, Wilcoxon検定: $p < 0.01$

平均値に示した同一アルファベットの太文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

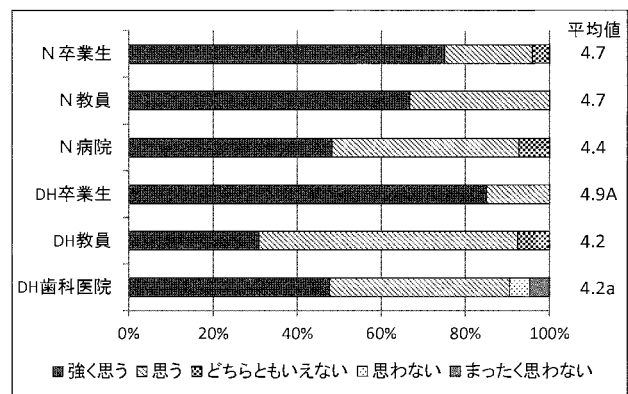


図19 コミュニケーション能力

χ^2 検定: $p < 0.05$, Wilcoxon検定: $p < 0.01$

平均値に示した同一アルファベットの太文字と小文字間には、多重比較検定の結果、有意であることを示す。

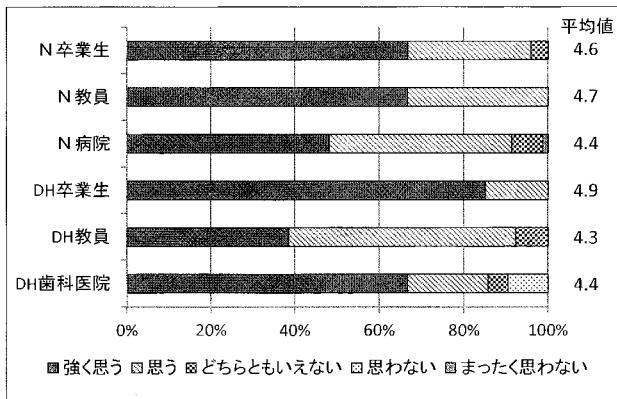


図20 責任感

χ^2 検定：p<0.05, Wilcoxon検定：p<0.05

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

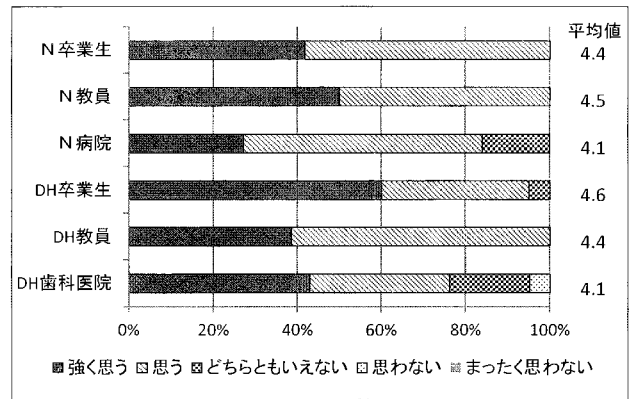


図23 問題発見、分析・解決能力

χ^2 検定：p<0.05, Wilcoxon検定：p<0.05

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

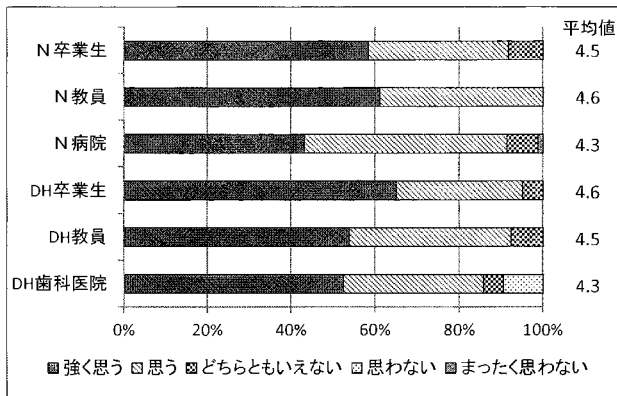


図21 自己管理能力

χ^2 検定：NS, Wilcoxon検定：NS

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

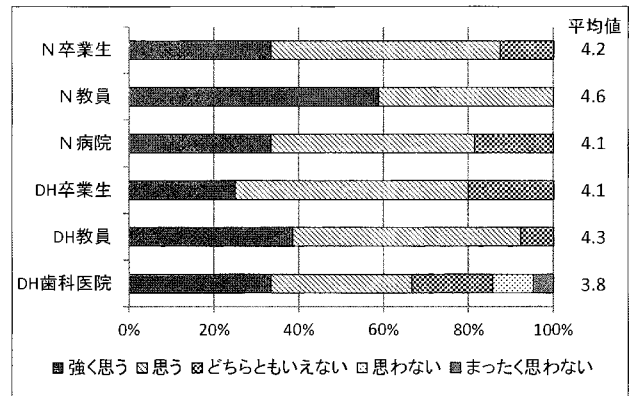


図24 論理的思考力

χ^2 検定：p<0.05, Wilcoxon検定：NS

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

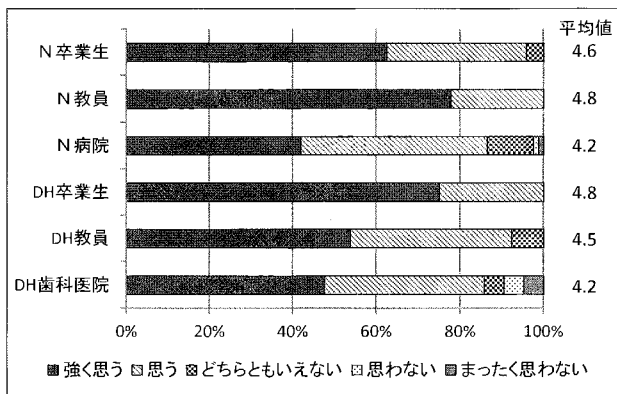


図22 マナーや言葉遣い

χ^2 検定：NS, Wilcoxon検定：p<0.01

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

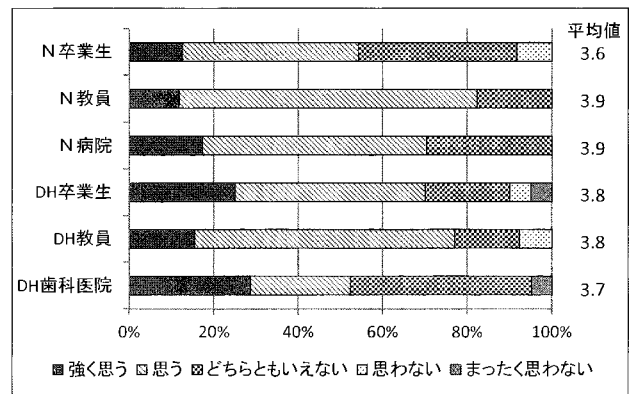


図25 汎用能力（情報検索、コンピューターのスキル）

χ^2 検定：NS, Wilcoxon検定：NS

平均値の多重比較の結果、有意差のある組み合わせはない。

で構成されるものと考え」と記されており社会で活躍できる人材育成が課題となっている。

大学での教育評価の一つに『学生による授業評価』があるが、授業に対する学生の評価が高いことと実際に学生が何を学び、社会でその成果を発揮して活躍できているかは別の問題である。

そこで、本学では「短期大学ステークホルダー調査」調査研究報告書⁴⁾を参考に専任教員や就業先への調査を実施した。

本学のステークホルダー調査ではコミュニケーション能力や思いやり・礼儀・マナーやチームワーク力等の人間力と専門科目の知識・技能および自己管理能力すべての能力が働くうえで必要であるとの回答を得た。このことは本学の卒業生の就業先が医療の場であることから当然のことと考える。

また、本学が掲げるディプロマポリシーに照らし合わせると「倫理観」、「幅広い知識・教養」、「対人関係・コミュニケーション能力」、「チームワーク力」、「問題設定・解決能力」、「思いやり・礼儀・マナー」、「専門科目の知識・技能」、「社会活動への参加意欲」、「向上心・能力開発につながる学習方法」については、いずれも卒業生と専任教員、卒業生と就職先、専任教員と就職先で有意な差がみられ、あるいは有意な差はみられないものの平均値が低い結果となった。社会での必要度が高く、卒業生や専任教員は身につけていると実感しているが、就業先では身につけていないとの評価を得た項目が多かった。社会における必要度は高いが、実際には身についた程度は低いと考えられる。

ディプロマポリシーの達成度として満足の得られる評価が得られなかったことは、就業先が医療の場であることからハードルの高さを感じる。就業先は卒業生を迎え入れている地域社会として位置づけられ、その評価は、教育の成果を把握することができ、教育改革・改善には重要である。

本学のディプロマポリシーは平成24年9月24日作成されたが、今後ホームページやシラバスに掲載するとともに、学生と教員が共有することにより、在学中の教育でさらに身についたと実感できるような施策を検討し、社会で必要な場面で活用できる力を育むことが重要である。

武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部、卒業生アンケート調査の結果報告⁵⁾によると、身についた能力として「社会の規範やルールに従って行動する力」が最も高く、次が「目標の達成に向かって取り組み続ける力」、「周囲の状況に配慮して行動する力」であった。さらに、身についた能力を1998年から2009年までの年次推移でみた場合、「情報リテラシー」がポイントを伸ばし、「問題解決力」、「チームワークリーダーシップ」、「状況

把握力」、「自己管理力・倫理観」に大きな変化はないものの高い数値を維持している。特に短期大学部では「問題解決力」、「チームワークリーダーシップ」は、ここ2～3年で一気にスコアを伸ばしていると報告されている。また、2010年度鹿児島女子短期大学卒業生アンケート調査結果報告⁶⁾では、短大卒業直後に自分に不足していたこととして「積極性・行動力」、「一般知識」、「コミュニケーション能力」、「専門知識・技術」、「パソコン操作」を挙げている。他大学における調査報告書も参考に、本学においても調査を継続していくことで、ディプロマポリシーの達成度が図れると同時にカリキュラムの改善・改革に繋げていきたい。

謝辞

本調査にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 神奈川県歯科大学短期大学部 CAMPUS GUIDE 2013、P6、(2013)
- 2) 短期大学基準協会第三者評価の概要、評価基準、<http://www.jaca.or.jp/service/evaluation/pattern.html>、2014年1月10日アクセス
- 3) 中央教育審議会 答申：今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について、(平成23年1月31日) <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000015s0j-att/2r98520000015sp1.pdf>、2014年1月10日アクセス
- 4) 財団法人短期大学基準協会調査研究委員会、「短期大学ステークホルダー調査」調査研究報告書、(2007)
- 5) 武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部自己評価委員会、卒業生アンケート調査 結果報告書、2011. 3
- 6) 2010年度鹿児島女子短期大学卒業生アンケート調査結果報告、http://www.jkajyo.ac.jp/upload/atuhime_sotucyosa.pdf、2014年1月10日アクセス

著者への連絡先：伊ヶ崎理佳 〒238-8580 神奈川県横須賀市稲岡町82番地 神奈川県歯科大学短期大学部歯科衛生学科

TEL：046-822-8770 FAX：046-822-8770

E-mail：ikazaki@kdu.ac.jp